

寝て待つ、その前に。

事務局長 渡邊晃司

行くぜ！全日青！

子どもの頃に習った慣用句をあらためて辞書で調べてみると、新たな発見があり大変おもしろいです。最近調べたのは「果報は寝て待て」という慣用句。

辞書には「幸運の訪れは人の力ではどうにもできないものだから、あせらずに時機を待つのが良いということ」と書かれています。

ここでは、果報を幸運と捉えて説明していますが、仏教では「結果とそれに応

じた報い」を果報といます。そのため、喜ばしい果報だけではなく、辛い果報も訪れます。

さらに仏教では、寝て待つ前の自身の行動が果報を変化させると説かれます。

最終的には「仏さまにおまかせしよう」という心持ちで待つことになりませんが、それまでに何を

するのが、とても重要です。善い果報を願っていても、怠けて横になっている所にはなかなか訪れては

努力した結果は無価値にはならない

くれません。たとえば、取得したい資格があると思います。この場合、資格取得のためには、試験当日まで懸命に勉強することが大切です。何もせずに過ぎていては、資格の取得は難しいでしょう。試験を終えたら、あとは結果が出るのを待つだけです。終わった後に悶々と悩んでも、どうすることもできません。この時に、ようやく「果報は寝て待て」となるのです。

しかし、一生懸命に努力をしても、自身の願う結果が出ないこともあります。「あんなに頑張ったのに」と絶望感や徒労感に襲われることも少なくありません。それでも、この時に悲観的になって「すべて無駄だった」と結論づけてしまわないのが仏さまの教えです。どのような結果であっても、努力して積み重ねてきた知識や経験が、無価値になってしまふことは決してありません。ひとつの結果が出たその後こそ、自己の真価が問われる時であり、さらなる成長のチャンスです。なぜなら、まだ後ろで控えている『たくさん果報』があるのですから。

「できることを残しているうちは、寝て待つにはまだまだ早い」。辞書の中に仏さまからの激励を見つけたのでした。

◇ ◇

渡邊晃司／昭和60年生まれ／全日青事務局員／北九州市浄泉寺修徒／立正大学仏教学部宗学科卒業

